

BOOK Review

問題解決型救急初期診療 第3版



評者 増井 伸高 札幌東徳洲会病院救急センター副センター長

◆何を指標に選ぶか？

2020年代以降は救急のマニュアル本が非常に充実しています。研修医は数十冊以上の中から何を買うか迷ってしまうでしょう。上級医だってオススメ本を知る必要があります。数あるマニュアル本から皆さんは何を指標に選んでいますか？

「先輩研修医に聞く」「書店で読み比べる」「Amazonの★の数」いずれも悪くありません。しかし、私のオススメは「増刷数の多いものを選ぶ」という戦略です。

新しい医学書を何部作るかは、出版社が売り上げ予想部数から「初版刷数〇千部」と数を決めます。その予測以上に売れると増刷です。ドラマで黒木華さんが「重版出来♪」と言っていたヤツですね。一方で残念ながら重版出来されず書店で1冊だけ棚差しされ、残りが出版社に払い戻される書籍もけっこうあります。

売れに売れて増刷を第2刷、第3刷と繰り返すと書籍の冒頭や末尾に記載されます。お手元の医学書をチェックしてみましょう。その本が既に有名で人気のある医学書なら増刷数も多いはず。そう、なにより「増刷数」は信頼のおける良書の指標なのです。では本書の増刷数は……「**第1版第7刷、第2版第8刷**」!! これは超オススメの書籍といえます。

◆なぜ売れているのか？

本書を開くと売れている理由がすぐにわかります。それは救急現場に必要な全ての問題を網羅しているからです。本書の第2～4部の章立ては計44項目の症候から成ります。章立てが診断名ではなく症候名なのがポイントです。例えばCOVID-19という章立てはありませんが、ある症候ではいつCOVID-19を疑い、何を処方するかは必要十分に記載されています。救急患者さんは診断名でなく症候で来院するため、症候の解決が問題解決型なのです。

また全章で図・表・チャートが多いのも売れている理由でしょう。本を作るとわかるのですが、作図は著者も出版社も非常に骨が折れる作業なのです。私などは過去の執筆で作図作業に発狂して、文字の羅列に逃げようとしたことが何度もありました。その点で本書は読者目線の図説が目白押し。著者の田中和豊先生と医学書院さんが骨を折って救急現場目線の書籍化に挑戦した熱意がひしひしと伝わってきます。

売れている本が正義です。第1版第7刷、第2版第8刷に続き、今回の第3版も数年後には増刷を重ね、多くの救急外来で活躍していること間違いありません。

田中 和豊 著

B6変型／564頁／2022年／定価5,280円(本体4,800円+税10%)／ISBN978-4-260-04732-6／医学書院刊